

坂田社労士事務所便り

生活保護

◆生活保護制度とは？

健康で文化的な最低限度の生活に必要な「最低生活費」を国が定め、申請者の資力が不足する分だけを給付します。月収などがあれば、必要経費などを除き差し引かれます。保護基準額は地域により6段階に分かれ、さらに保護世帯の家族構成によって細かく規定されています。費用は国が4分の3、自治体が4分の1を負担します。

◆生活保護を受ける世帯が急増

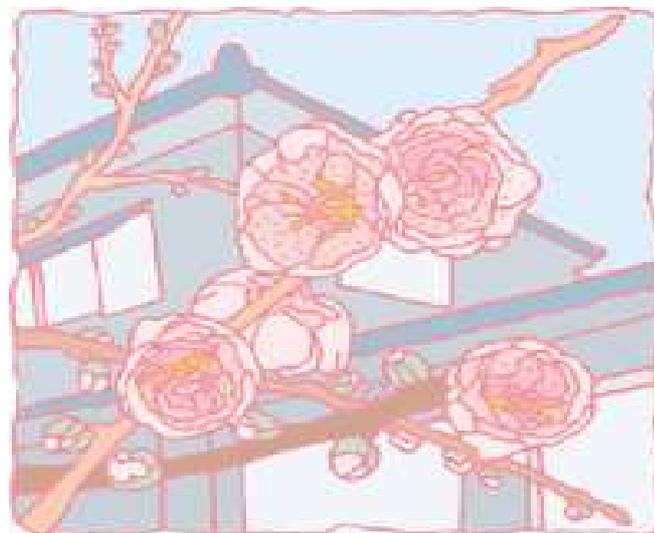
生活保護を受けている人は第2次石油危機後の1985年以降、減少傾向にありましたが、95年から増加しています。厚生労働省「福祉行政報告書」によれば、2004年度の平均受給世帯は約100万世帯、人数は約142万人です。10年前に比べ、1.6倍以上に増えています。日本の全人口に占める割合は、約1.1%、実に100人に1人が生活保護を受けている計算になります。

◆最低生活費とは？

年齢・性別・世帯構成・所在地などにより決定されます。たとえば、夫33歳、妻29歳、子4歳の場合、東京23区であれば、162,170円。夫68歳、妻65歳で年金収入が月額9万円のみであれば、最低生活費は171,940円となり、年金収入を差し引き、差額の81,940円が支給されます。

◆問題点

現状では、高齢者世帯で満額の老齢基礎年金を受給すると、月66,208円、夫婦2人で132,416円が支給



されます。高齢者夫婦の最低生活費は上記のとおり17万円程度であり、たとえ満額の老齢基礎年金であっても、生活保護を受けたほうが受給金額は多くなります。生活保護を受けると、様々な生活の制限を受けますが、国民年金保険料を払った人より生活保護を受ける人のほうが受給額が多くなるという現実が起こっています。また、働けるのに働かない、収入があるにもかかわらず、申告をせずに生活保護を受給するなどの不正受給もあると言われております。あたり前のことではありますが、本来受給すべき人に適切な運用ができるようにすべきでしょう。

有給休暇、取得義務付けを検討

「競争の激化やバブル崩壊後のリストラなどの影響で、年次有給休暇が年々取得しにくくなり、2004年度の年次有給休暇の取得率は46.6%と過去最低を更新しています。厚生労働省は年次有給休暇の取得を促すなど、労働時間制度を抜本的に見直す検討に入りました。

◆有給休暇は

会社は労働者を雇入れの日から起算して6カ月間継続勤務し、その期間の全所定労働日の8割以上出勤した労働者に対し、10日間の有給休暇を、その後は1年経過するごとに勤続年数に応じた日数の有給休暇を与えなければなりません。また、パートやアルバイトにも労働時間や労働日数に応じ、定められた日数の有給休暇を与えることが義務付けられています。

◆取得時期を事前に決定

有給休暇をいつ取得するかについては、労働者の判断に委ねられていますが、職場の雰囲気や同僚や上司への気兼ねなどから、なかなか取得しにくい面があるようです。厚生労働省は有給休暇のうち、一定日数についての取得時期を、労働者の希望を踏まえて企業があらかじめ決めておくことを義務付けることを検討しています。事前に休暇時期を把握することで事業計画を立てやすくなる効果もあります。

現在も、労使が合意すれば事前に有給休暇の取得日を決めておく制度がありますが、導入している企業は2005年現在で14%にとどまっています。

◆退職時に有給買取りも

取得しなかった有給休暇の権利は2年で消滅します。現在、厚生労働省は原則的に有給休暇を金銭的な手当てに代えることを認めていませんが、退職時に限って未消化分の有給休暇を企業が買い取る新しい仕組みを検討するようです。

2008年度にかけて高齢者を中心に窓口での自己負担が増えるほか、保険再編で保険料も変わってくるのが予想されます。

◆医療費はどう変わる？

今年10月に実施予定の制度改定では、まず70歳以上で現役並みの所得者の病院窓口での自己負担の割合が2割から3割に増えます。また、骨折やがんの治療など、多額の費用がかかった場合は、毎月の自己負担額に限度額が定められていますが、この限度額も今年10月から引き上げられ、その分の自己負担額が増える予定です。

さらに70歳以上の長期入院患者の食費や居住費が保険対象外となり、自己負担になるほか、死亡時に支給される埋葬料も現在の10万円から一律5万円に引き下げられることが決まっています。

◆診療報酬の削減

一方で、2006年度の診療報酬改定では全体で3.16%の引き下げが決まるなど、負担が軽くなる部分もあります。これによって、2006年度の医療費は1兆円程度縮小される見込みとなり、患者の窓口負担分も基本的に減ることになるでしょう。

～坂田からひとこと～

みなさんは冬の味覚と云えば何が思い浮かびますか？私は牡蠣です。この時期、生で食するのもいいですが鍋やフライも美味しいですね。しかし、牡蠣で気を付けなければいけないのが、食中毒（ノロウイルス）です。実は私もやられました。。加熱して食するのが一番の予防法ですが、疲れているときや、病み上がりのときなど体力が落ちているときに感染しやすいらしいです。皆さんも辛い思いをする前に十分お気をつけ下さい。

医療費、高齢者の負担増加へ

2006年度の医療制度改革大綱が固まり、通常国会に改革関連法案が提出されます。今回の改革には医療費を抑制するための対策が盛り込まれ、今年10月から